

(14) 両足での立位

両足での立位は、「何かにつかまればできる」が 12,889,001 名(57.65%)、次いで「支えなしでできる」が 10,073,234 名で 34.52%を占め、これら合計の約 8 割が自立できる可能性が示されていた。これは、「起き上がり」の自立度とほぼ同じ割合を示していた。

表 I-34 両足での立位

	度数	パーセント
支えなしでできる	10073243	45.06
何か支えがあればできる	7718563	34.52
できない	4564951	20.42
合計	22356757	100.00

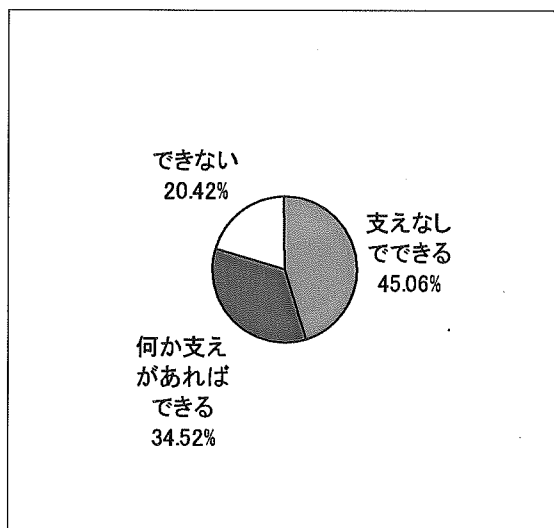


図 I-32 両足での立位

(15) 歩行

歩行は、「何かにつかまればできる」が 10,493,566 名(46.94%)で全体の半数程度で最も割合が高く、次いで「つかまらないでできる」5,616,273 名 (25.12%) を占め、両者で 7 割を超える程度であった。これは「両足での立位」の 8 割の自立可能性群の割合に比較すると若干、低い割合であった。

表 I-35 歩行

	度数	パーセント
つかまらないでできる	5616273	25.12
何かにつかまればできる	10493266	46.94
できない	6247218	27.94
合計	22356757	100.00

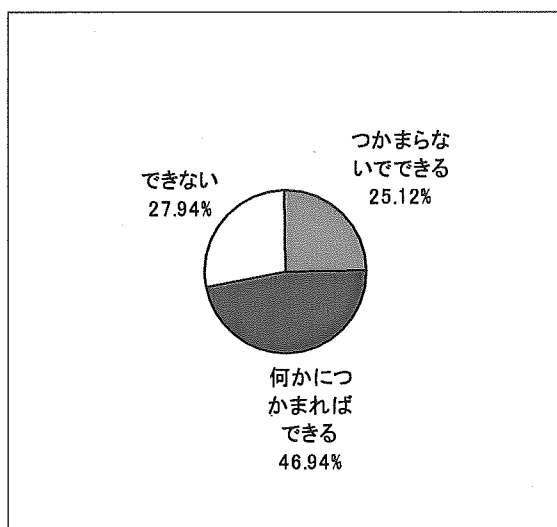


図 I-33 歩行

(16) 移乗

移乗は、「自立」が 12,627,992 名(56.48%)で全体の半数以上を占めていた。次いで「見守り」が 319,8091 名 (14.3%) で続いていたが、この「見守り」には、何らかの介助が必要と推察されることから、移乗の自立可能性群の割合は、歩行の7割よりもさらに低かった。

表 I-36 移乗

	度数	パーセント
自立	12627992	56.48
見守り等	3198091	14.30
一部介助	2496416	11.17
全介助	4034258	18.04
合計	22356757	100.00

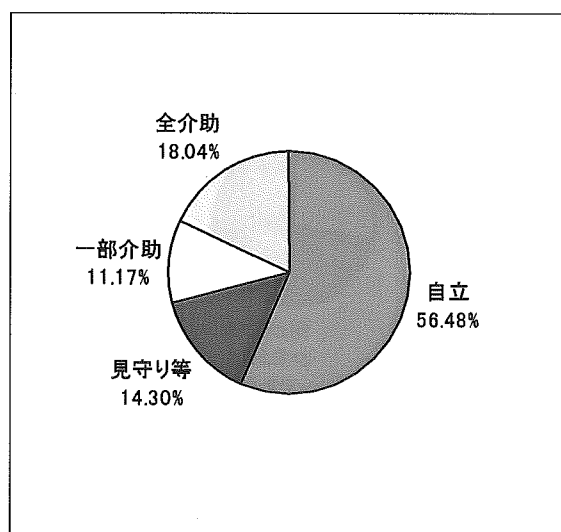


図 I-34 移乗

(17) 立ち上がり

立ち上がりは、「何かにつかまればできる」が 15,133,147 名(67.69%)で全体の約 7 割を占めていた。「つかまらないでできる」は 10.06%と少なく、要介護高齢者においては、何かつかまる物、あるいは人がいて、立ち上がることができる状態であることが示されたといえよう。

表 I-37 図 立ち上がり

	度数	パーセント
つかまらないでできる	2248617	10.06
何かにつかまればできる	15133147	67.69
できない	4974993	22.25
合計	22356757	100.00

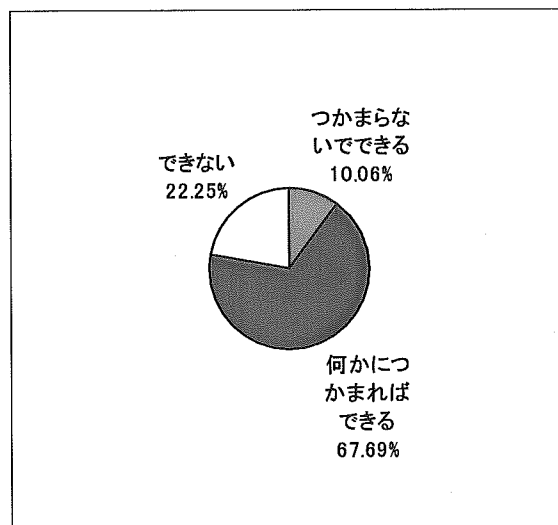


図 I-35 立ち上がり

(18) 片足での立位

片足での立位は、「何か支えがあればできる」が 11,520,408 名(51.53%)で全体の半数程度を占めていた。片足での立位を「支えなしでできる」のは、2,240,731 名 (10.02%) で立ち上がりができる要介護高齢者とほぼ同じ割合であった。

表 I-38 片足での立位

	度数	パーセント
支えなしでできる	2240731	10.02
何か支えがあればできる	11520408	51.53
できない	8595618	38.45
合計	22356757	100.00

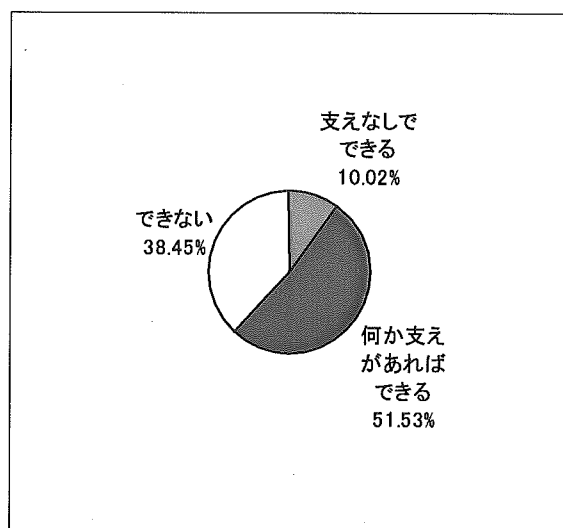


図 I-36 片足での立位

(19) 洗身

洗身は、自立、一部介助、全介助がそれぞれ全体の3割程度を占めていた。

表 I-39 洗身

	度数	パーセント
自立	6777049	30.31
一部介助	7620612	34.09
全介助	6757241	30.22
行っていない	1201855	5.38
合計	22356757	100.00

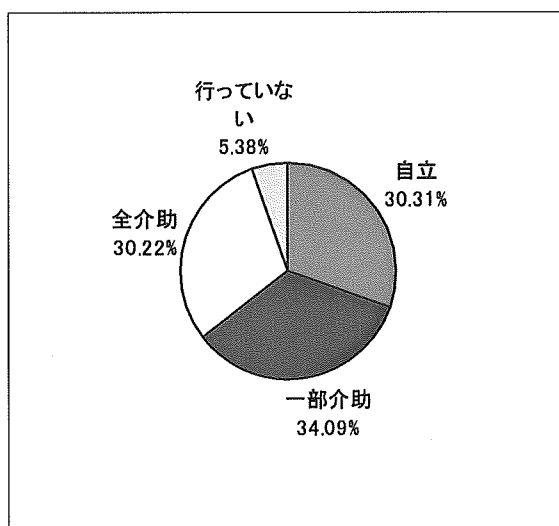


図 I-37 洗身

(20) じょく創

じょく創は、「ない」が 21,158,110 名(94.64%)で、ほとんどの要介護高齢者に発生していなかった。

表 I-40 じょく創

	度数	パーセント
ない	21158110	94.64
ある	1198647	5.36
合計	22356757	100.00

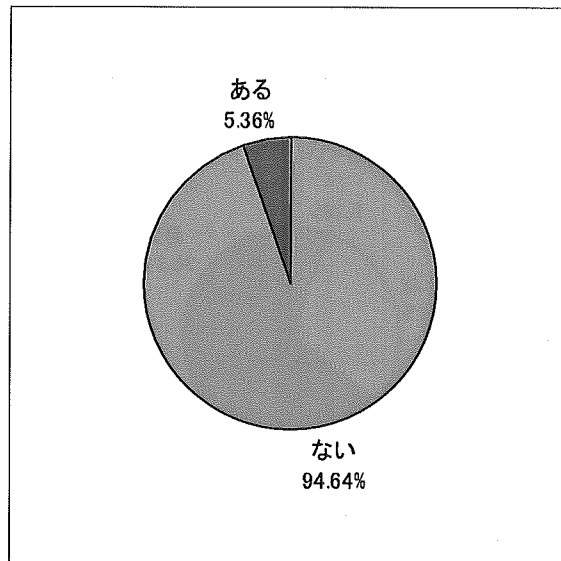


図 I-38 じょく創

(21) 皮膚疾患

皮膚疾患は、「ない」が16,779,487名(75.05%)で全体の7割以上で大勢を占めていたが、3割近くの要介護高齢者には、何らかの皮膚疾患があることがわかった。

表 I-41 皮膚疾患

	度数	パーセント
ない	16779487	75.05
ある	5577270	24.95
合計	22356757	100.00

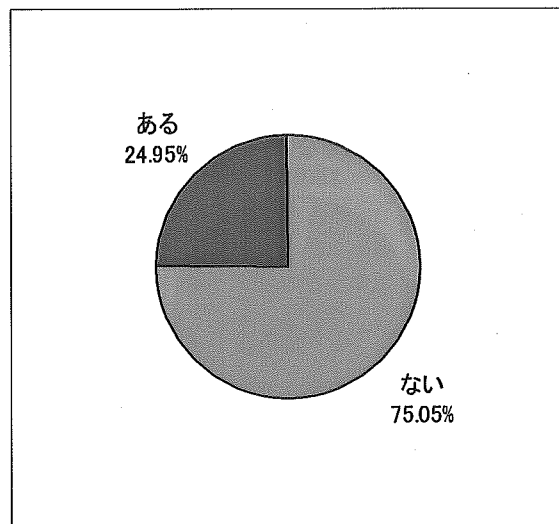


図 I-39 皮膚疾患

(22) えん下

えん下は、「できる」が 17,060,738 名(76.31%)で全体の 7 割以上を占めていたが、2 割が「見守り」が必要とされ、3%は、「できない」と回答されていた。

表 I-42 えん下

	度数	パーセント
できる	17060738	76.31
見守り等	4624589	20.69
できない	671430	3.00
合計	22356757	100.00

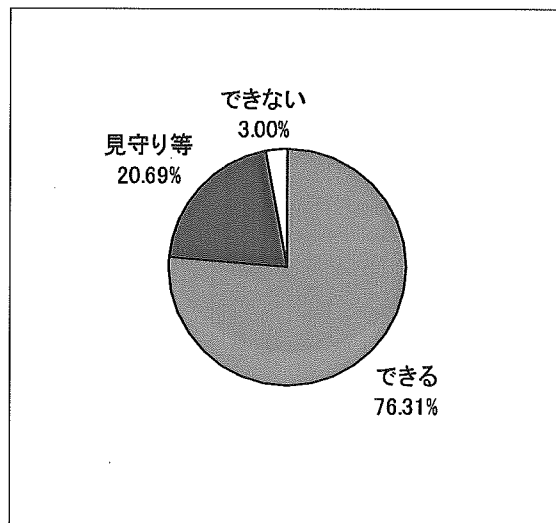


図 I-40 えん下

(23) 食事摂取

食事摂取については、「自立」が 15,343,681 名(68.63%)で全体の 7 割程度で最も割合が高く、次いで「見守り」が 2,833,782 名 (12.68%) で続いていた。何らかの介助を必要とする要介護高齢者の割合が約 2 割も占めていることが明らかにされた。

表 I-43 食事摂取

	度数	パーセント
自立	15343681	68.63
見守り等	2833782	12.68
一部介助	2194606	9.82
全介助	1984688	8.88
合計	22356757	100.00

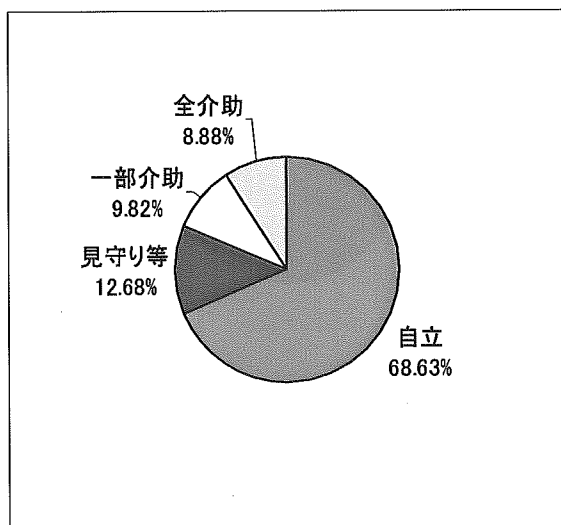


図 I-41 食事摂取

(24) 口腔清潔

口腔清潔は、「自立」が 12,874,643 名(57.59%)で全体の半数以上、一部介助が 5,395,562 名 (24.13%) で 4 割以上が何らかの介助を必要としていた。

表 I-44 口腔清潔

	度数	パーセント
自立	12874643	57.59
一部介助	5395562	24.13
全介助	4086552	18.28
合計	22356757	100.00

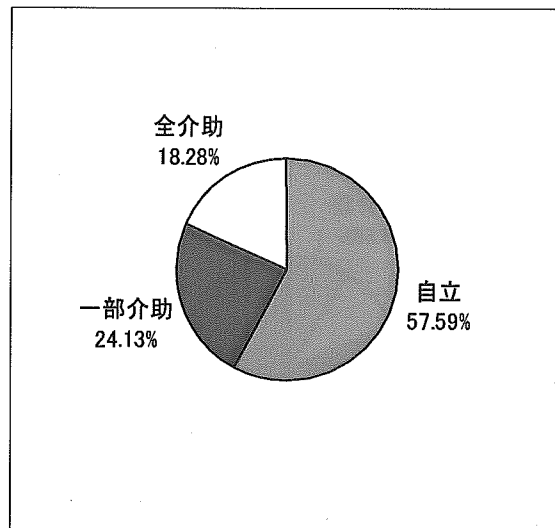


図 I-42 口腔清潔

(25) 洗顔

洗顔は、「自立」が 13,093,051 名(58.56%)で全体の半数以上を占め、一部介助が 5,468,179 名 (24.46%) でこの自立の割合は、口腔清潔と類似していた。

表 I-45 洗顔

	度数	パーセント
自立	13093051	58.56
一部介助	5468179	24.46
全介助	3795527	16.98
合計	22356757	100.00

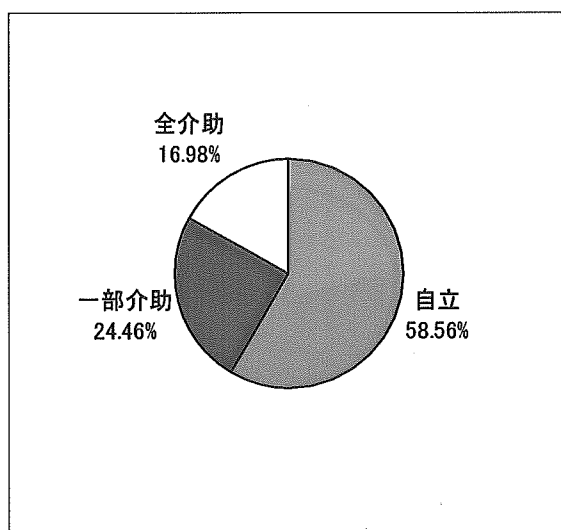


図 I-43 洗顔

(26) 洗髪

洗髪は、「自立」が 13,957,195 名(62.43%)で全体の 6 割以上を占め、「一部介助」が 3,703,081 名 (16.56%) であった。洗髪は、口腔清潔 57.59%、洗顔の 58.56%よりも「自立」の割合が高かった。

表 I-46 洗髪

	度数	パーセント
自立	13957195	62.43
一部介助	3703081	16.56
全介助	4696481	21.01
合計	22356757	100.00

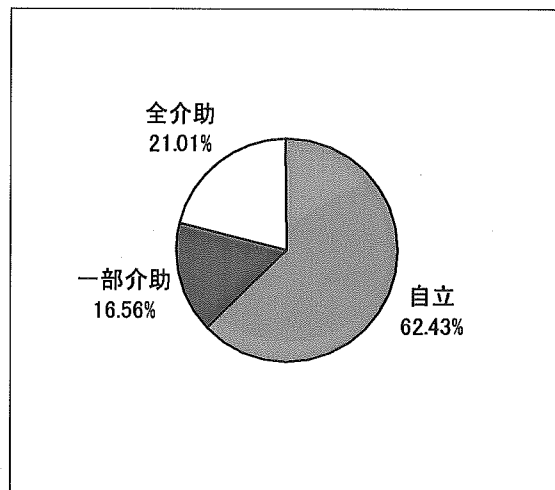


図 I-44 洗髪

(27) つめ切り

つめ切りは、「全介助」が 12,483,674 名(55.84%)で半数以上の要介護高齢者は、介助が必要である行為であった。「自立」は、わずかに 28.17%にすぎず、要介護高齢者にとっては困難な行為であると推察された。

表 I-47 つめ切り

	度数	パーセント
自立	6297084	28.17
一部介助	3575999	16.00
全介助	12483674	55.84
合計	22356757	100.00

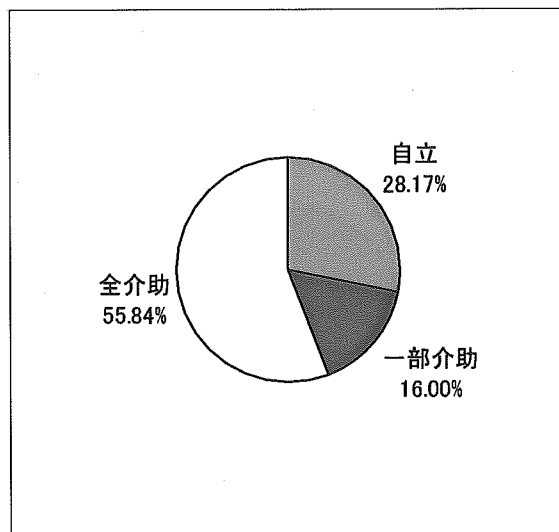


図 I-45 つめ切り

(28) 上衣の着脱

上衣の着脱は、「自立」が 10,913,161 名(48.81%)で最も割合が高かったが、次いで「全介助」が 4,814,547 名 (21.53%) と続いていた。

表 I-48 上衣の着脱

	度数	パーセント
自立	10913161	48.81
見守り等	2049055	9.17
一部介助	4579994	20.49
全介助	4814547	21.53
合計	22356757	100.00

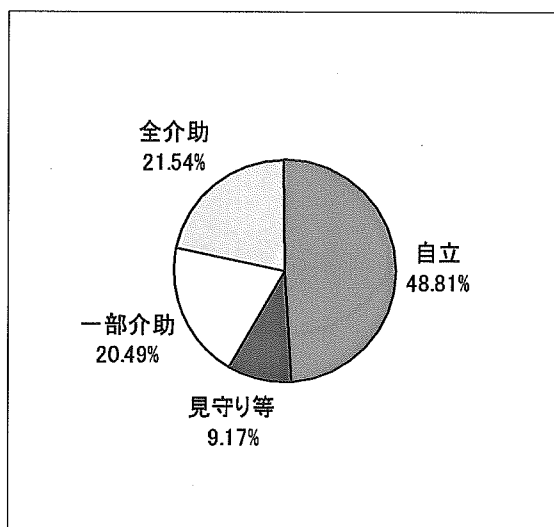


図 I-46 上衣の着脱

(29) ズボン等の着脱

ズボン等の着脱は、「自立」が 10,487,201 名(46.91%)で全体の 4 割以上を占めていたが、次いで全介助が 5,801,227 名(25.95%)で上着よりもズボンのほうが若干、介助を必要とする割合が高かった。これは、麻痺などが上肢よりも下肢に多いことが影響していると推察される。

表 I-49 ズボン等の着脱

	度数	パーセント
自立	10487201	46.91
見守り等	1932982	8.65
一部介助	4135347	18.50
全介助	5801227	25.95
合計	22356757	100.00

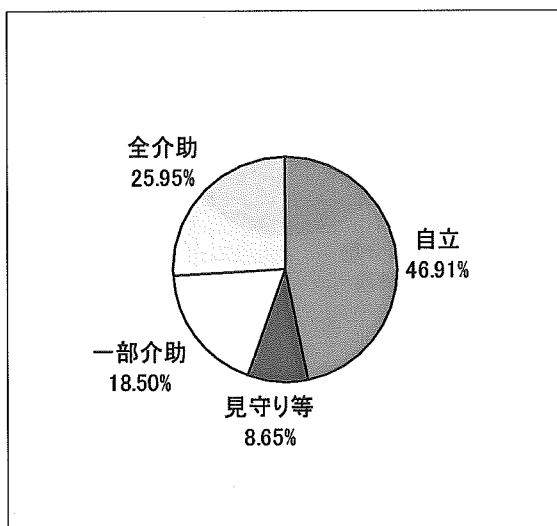


図 I-47 ズボン等の着脱

(30) 薬の内服

薬の内服は、「自立」が 7,833,154 名(35.04%)、一部介助が 9,538,831 名(42.67%)、全介助が 4,984,772 名(22.30%)で、一部介助の割合が最も高かった。

表 I-50 薬の内服

	度数	パーセント
自立	7833154	35.04
一部介助	9538831	42.67
全介助	4984772	22.30
合計	22356757	100.00

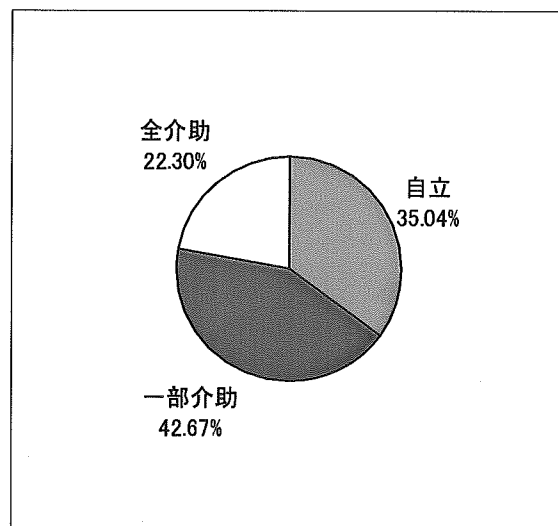


図 I-48 薬の内服

(31) 金銭の管理

金銭の管理は、「全介助」が 10,181,539 名(45.54%)で全体の半数程度を占め、最も高い割合であった。次いで自立が 7,147,817 名 (31.97%)と続いていた。

表 I-51 金銭の管理

	度数	パーセント
自立	7147817	31.97
一部介助	5027401	22.49
全介助	10181539	45.54
合計	22356757	100.00

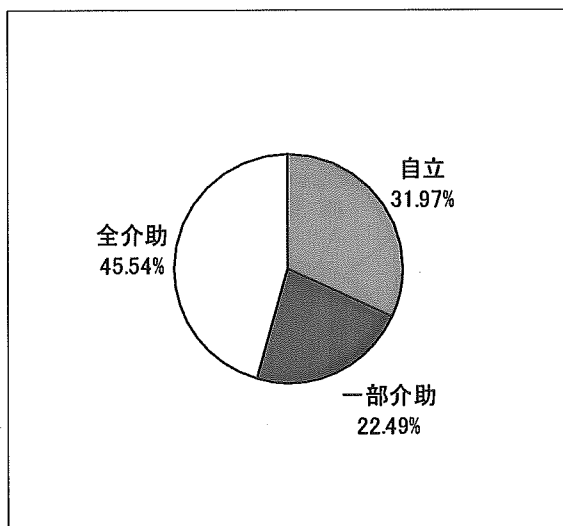


図 I-49 金銭の管理

(32) 視力

視力は、「普通」が 15,201,468 名(67.99%)で全体の 6 割以上を占め、最も高い割合を示していた。

表 I-52 視力

	度数	パーセント
普通	15201468	67.99
1m離れて見える	4650531	20.80
目の前で見える	1366214	6.11
ほとんど見えない	483236	2.16
判断不能	655308	2.93
合計	22356757	100.00

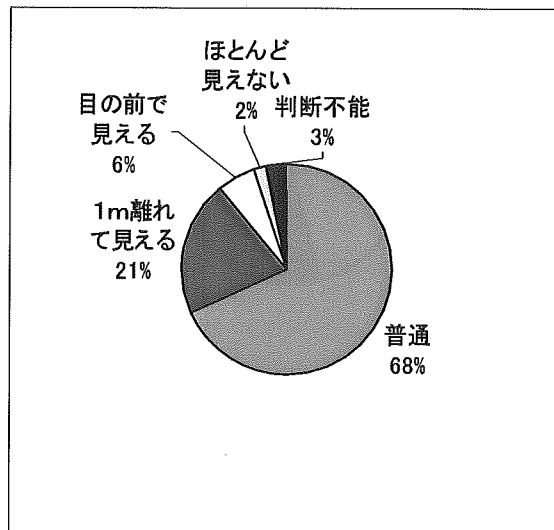


図 I-50 視力

(33) 聴力

聴力は、「普通」が 12,455,161 名(55.71%)で全体の半数以上を占め、最も高い割合を示していた。視力よりは聴力のほうが、自立度は低い傾向が示されていた。

表 I-53 聴力

	度数	パーセント
普通	12455161	55.71
やっと聴き取れる	5608605	25.09
大きな声聴き取れる	3592751	16.07
ほとんど聴こえない	274410	1.23
判断不能	425830	1.90
合計	22356757	100.00

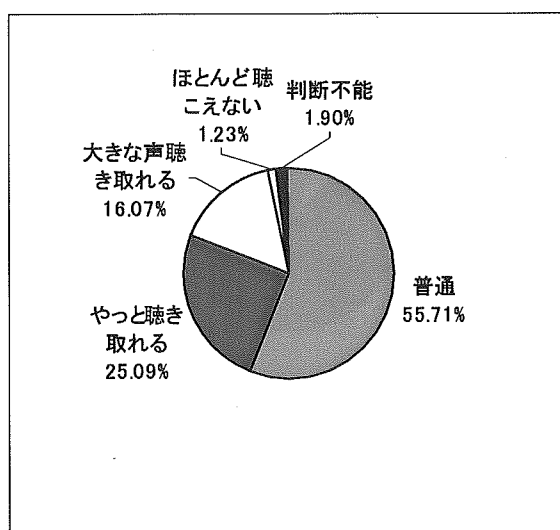


図 I-51 聴力